

桃山学院大学と和泉市の連携事業結果一覧表（平成26年度）

（平成27年3月末日）

No	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の内容	事業効果・成果
1	ふれあいニュースポーツ教室	生涯学習部 スポーツ振興課	学生支援課 スポーツオフィス	ニュースポーツを3種目程度取り入れて、月に1度桃山学院大学サブアリーナでふれあいニュースポーツ教室を実施した。 ニュースポーツ種目: キンボールスポーツ・ピロポロ・公式ワナゲ・クロリティ・ソフトラクロス・ラダーゲッターなど	毎月20名～30名の子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加があり、参加者全員でスポーツに関わり、身体を動かすことによる体力の向上だけでなく、広い世代が交流することによる子どもの健全育成にも繋がっている。
2	和泉市キンボールスポーツ大会	生涯学習部 スポーツ振興課	学生支援課 スポーツオフィス	桃山学院大学のメインアリーナで大会を開催した。（小学生の部と中学生以上の部に分けた） 日時：平成27年2月22日（日）	4人1チームでひとつのボールを追いかけることにより、スポーツによる感動の共有や協調性を高めることに繋がっている。
3	信太山クロスカントリー大会 I N 大阪和泉	生涯学習部 スポーツ振興課	学長室 地域連携室	広告協賛協力及びボランティア派遣を行った。（受付等補助として一般学生を8名・ボランティアランナーとして陸上競技部が11名を派遣） 日時：平成27年1月11日（日）	ボランティアに関しては参加者が増えるなか、受付などでご助力いただくことにより、スムーズな運営ができた。
4	和泉ボランティア・市民活動センター運営事業	公民協働推進室 公民協働推進担当	学生支援課 ボランティア活動支援室	アイ・あいロビー利用促進のため、平成26年12月20日（土）のアイ・あいロビー教室内で、桃山学院大学ボランティアスタッフ主催のクリスマス会（スライム、プラ板作り）を開催し、市内の親子連れ24名が参加した。 平成27年度は4月22日（土）・6月13日（土）・10月10日（土）・12月12日（土）の計4回、親子連れを対象にしたイベント、「子育て世代応援～ももやまキッズランド～（仮称）」を開催する予定である。	学生のアイデアや意見を取り入れた事業を実施したことにより、市民活動センターをご利用いただいたことがなかった市民の利用につながり、センターの活性化が図られた。また、今までセンターを知らなかった学生に対し、センターの存在はもちろんのこと、目的や事業について知っていただくきっかけとなった。このことで幅広い世代の市民にとってボランティアに参加しやすい環境づくりが図られ、また学生にとって「アイ・あいロビー」専門部会の協力のもとひとつの事業を自らが企画から実施に至る全てのプロセスに携わることで貴重な体験となった。
5	防犯ボランティア団体発足支援	公民協働推進室 危機管理担当	学生支援課	平成26年度、桃山学院大学において学生防犯ボランティア団体の発足を目指し、大阪府警本部、和泉警察署と連携して、下記の事業を行った。 1. 青色防犯パトロールカー活動体験 日時:平成26年6月19日（木）、7月9日（木）、9月16日（火）、場所:和泉市立緑ヶ丘小学校及び青葉はつが野小学校区内 実施内容:青色防犯パトロールカーへの乗車・活動体験、防犯ボランティアとの意見交換会 2. 安まちクロスロード研修 日時:平成26年7月2日（水）、場所:桃山学院大学 実施内容:防犯をテーマにした想定問題の検討・考察 3. フィールドワーク及び防犯計画の策定等 日時:平成26年8月15日（金）、場所:桃山学院大学周辺 実施内容:実際に犯罪発生現場に赴き防犯上の問題点の分析等を実施した上で、今後防犯計画の策定を行い、当該計画に基づいた防犯活動を警察と協働して実施 4. 大学生防犯ボランティア発足式の開催 日時:平成26年10月9日（木）、場所:桃山学院大学 チャペル 実施内容:来賓挨拶、記念品等贈呈、学生による決意表明、緑ヶ丘小学校児童会のお礼の言葉、式典後は、青色防犯パトロールカーによる見守り活動を実施	・桃山学院大学の学生防犯ボランティア団体の発足 （結成当時、参加者は12名。平成27年3月現在では24名）
6	いずみの国グルメグランプリ	商工労働室 商工推進担当	学生支援課	和泉市の魅力発信及び地域貢献をめざし、泉州の食文化を広く浸透させるため、「いずみの国グルメグランプリ」を開催した。 開催日時:平成26年8月23日（土）午後3時から午後8時まで 開催場所：桃山学院大学「聖アンデレ広場」・「学院通り」	出店店舗数 29店舗 売上食数 5,210食 来場者数 約9,000人
7	消費者啓発講座業務	商工労働室 商工推進担当	経済学部 経営学部 法学部 社会学部	桃山学院大学で行われる消費者啓発講座の実施のため、消費生活相談員を講師として派遣した。 ・第1回目 平成26年6月26日（木）10:00～ 「お金のトラブルに巻き込まれないように（多重債務と悪徳商法）」 参加者150名 ・第2回目 平成26年7月3日（木）11:00～ 「悪質商法の被害にあわないために」 参加者200名 ・第3回目 平成26年10月29日（水）11:00～ 「悪質商法の被害にあわないために」 参加者80名 ・第4回目 平成26年12月12日（金）15:00～ 「消費者知力をつけよう（悪質商法のコント）」 参加者20名 また、第4回目に実施した社会学部の学生と、ゼミ活動の一環として複数回の講座を連携して行った。	・学生が複雑多様化する消費者問題に関する知識の習得ができた。 ・ゼミ活動による学生の参加体験・発表を通じた消費者市民社会の担い手として主体的な判断のできる自立した消費者の育成ができた。 ・消費者問題に関しては、学生は「民法入門」等で理論を学習しているが、この講演ではその実務や現場について学ぶことができた。 ・この講演の内容は、今年度「基礎演習」8クラスが「消費者問題を考える寸劇」を実演する上でも、学生たちの理解を深めることができ、有益であった。 ・ネットショッピングのみならず、就職活動をだしにした悪徳商法など、学生にとっては身近な事例も紹介され、啓発の意味は大きかった。
8	地域の魅力・顔づくりプロジェクト<和泉中央>	商工労働室 商工推進担当	学長室 地域連携室	鉄道・バス事業者、商店街、学校などの地域の多様な関係者と行政が協働して「うつくしく個性がきらめき、魅力ある空間」に再生することで、地域の活性化を図った。 【平成26年度実績】 ・駅前の清掃活動・花植え（6月、11月）桃山学院大学教職員・学生が参加者 計15名 ・和泉中央駅でのイルミネーション（11月～2月） ・和泉中央駅周辺のシンボル創出検討	・清掃活動・花植え・イルミネーションにより地域のにぎわい創出を図った。 ・シンボル創出について桃山学院大学学生とともに検討した。

桃山学院大学と和泉市の連携事業結果一覧表（平成26年度）

（平成27年3月末日）

No	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の内容	事業効果・成果
9	和泉市交換学生派遣事業	人権・男女参画室 人権国際担当	国際センター	姉妹都市である米国ブルーミントン市へ交換学生として派遣するために、桃山学院大学より学生を1名推薦した。学生は、和泉市学生代表団の一員として2週間姉妹都市交流プログラムに参加した。【和泉市国際交流協会事業】	ブルーミントン市では、桃山学院大学のサークル活動を紹介するプレゼンテーションを行い、交流が深められた。
10	和泉市中学生英語スキットコンテスト	人権・男女参画室 人権国際担当	外国語教育センター	和泉市内中学生を対象に国際交流や国際理解、英語への興味を深めるために実施し、3組8名の参加があった。外国語教育センターの講師に、他の審査員2名と共に、参加者が演じる課題に基づく英語スキット（寸劇）を審査して頂いた。コンテスト当日の審査および講評だけでなく、評価基準や発表者が難しいと感じるようなことの想定、スクリプトの内容等について事前に他の審査員と検討が重ねられた。【和泉市国際交流協会事業】	参加者の発表後、実際にネイティブの審査員がスキットを行い、参加者が生きた英語に触れることができた。
11	法職オリエンテーション	市長公室 人事課	法学部	桃山学院大学法学部1年次生を対象に、学習意欲の向上を図り、和泉市への関心や市政への参加意欲を高めるため、市長自ら大学へ出向き、下記のとおり講義を行った。 【開催場所】 桃山学院大学 【開催日時】 平成26年10月31日（金） 15:00～16:30（1時間30分） 【参加者】 桃山学院大学法学部1年次生 約100名 【講義内容】 1:和泉市と和泉市の事業の紹介、2:市役所の役割、3:市役所の仕事の魅力、 4:市長からみた行政マンに求められる資質と能力、5:仕事におけるマネジメントの重要性、6:和泉市に関するクイズ、7:学生との質疑	市役所の仕事について理解してもらい、興味を持ってもらうことができた。桃山学院大学の学生は、和泉市の採用試験を受験する方も多く、採用の啓発にもなっている。
12	放課後子ども教室（げんきっ子プラザ） 留守家庭児童会（なかよしクラブ）	生涯学習部 生涯学習課	教育支援課	桃山学院大学の学生を留守家庭児童会運営における生活指導補助要員として募集し、6月2名、10月1名の計3名が参加した。今回、北松尾小学校仲よしクラブと緑ヶ丘小学校仲よしクラブ及び青葉はつが野小学校仲よしクラブにおいて、指導員の業務である児童の保育補助を行った。	留守家庭児童会を運営するうえで、学生が補助要員として保育補助を行った。
13	実習生の受け入れ	青少年センター	社会学部	実習生にとってコミュニケーションや協調性を学ぶ機会を提供することを目的として、市内の小中学生を対象に料理、工作、スポーツ活動等を行う事業として毎週土曜日に実施している「ふれあいサタデー」及び長期休みに実施している「ユースゼネレーション」に参加。	子ども達にとって年齢の近い実習生が教室に入ることにより、子ども達も話しやすく、活発な事業となった。また、実習生にとってもコミュニケーション能力の向上の場の一つとして有意義な事業となった。
14	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業	久保惣記念美術館	国際教養学部 学長室	美術館が学生に周知され、来館するための方策および大学が美術館を有効に活用する方策について協議を行った。美術館を使った授業や美術館学芸員が大学で講義を行うといった協議を行ったが、いずれも具体的な実施案まではいかなかった。美術館の広報事業については、チラシや年間展示案内の設置、配布に協力することとした。そのほか、美術館の広報対象として、美術や音楽の学生サークル、エクステンションセンターが候補になることを確認した。また、留学生は日本文化に関心が高く、美術館茶室の見学や陶芸教室の体験といった連携の可能性について協議した。	平成27年度には、美術館の広報配布物の設置を行うこととなった。協議の場において美術館の広報活動や活用についての共有をすることができた。
15	CSW（コミュニティソーシャルワーカー）へのスーパーバイズ	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部	CSWの活動の可視化、方向性の確認、新たな取組などスキルアップを図ることを目的として、桃山学院大学にて、8名のCSWの方と月1回（2時間）のペースで、事例検討および活動内容についての（グループ）スーパービジョンを実施している。今年度は次のとおり計4回実施した。 ・平成26年5月 地域福祉におけるCSWの役割についての講義 ・平成26年10月 CSW活動記録に係る分類シートについて ・平成26年11月 CSW事例に基づき、関わりが困難なケース対応等について ・平成27年1月 平成26年度第2回和泉市福祉でまちづくり委員会におけるCSW活動報告内容について	CSWの基礎となる講義やCSWが担当した困難ケースに関する対応方法等について、専門的なアドバイスをいただくことで課題の共有やスキルアップにつなげた。また、日々の活動内容を記載する分類シートについて、平成26年度第2回和泉市福祉でまちづくり委員会での活動報告や報告内容に関連したCSWホームページの見せ方等についてもアドバイスをいただき、CSWの活動の可視化を図った。
16	社会的居場所づくりプロジェクト	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部	3名の対象の方に4年次ゼミ生6名が2人ずつペアになり、訪問や外出支援をしてきたが、今年度は次のとおり実施するなど交流活動のサポートに力点をあいた活動を実施した。これらの活動には3年次生のゼミ生も毎回10名程度参加し、3年次生4名が新たに2名の方への訪問活動と外出支援の活動を開始している。 ・継続ケース 対象者:3名 関わりのある学生:6名 担当CSW:1名 ・新規ケース 対象者:2名 関わりのある学生:3名 担当CSW:2名 ・平成26年4月 生協障がい者就労支援事業所(ハートコープ・エコロジーファーム)見学 (参加者) 対象者:3名 学生:6名 CSW:2名 他支援者:2名 ・平成26年6月 たこ焼きパーティー (参加者) 対象者:5名 松端教授 学生:15名 CSW:4名 他支援者:13名 ・平成26年8月 流しそうめん (参加者) 対象者:3名 松端教授 学生:9名 CSW:8名 他支援者:16名 ・平成26年11月 みかん狩り (参加者) 対象者:5名 松端教授 学生:15名 CSW:6名 他支援者:13名 ・平成26年12月 クリスマスパティー (参加者) 対象者:1名 松端教授 学生:14名 CSW:5名 他支援者:11名	社会的に孤立している方（ひきこもり等）の交流の場として、社会学部 松端教授の専門的なアドバイスと身近な存在のフレッシュな意見を活かし、CSWと協働して社会資源の活用、連携の仕組みづくりを行った。
17	CSW福祉でまちづくりプロジェクト	生きがい健康部 福祉総務課	社会学部	市営住宅の空き店舗を有効活用し、地域住民、学校、学生、CSWが協働して、人を育て、文化を伝承し、地域で支えあえる関係づくり、仕組みづくりを目的に、平成26年6月に、幸にある市営住宅の1階にある空き店舗を松端ゼミの3年次生が視察し、空き店舗の活用方法についてワークショップの手法でアイデアを出し合い、整理した。その後、春学期末に検討状況を市社協の担当者より松端ゼミに対して報告が行われた。また、平成27年3月29日（日）に市営住宅の空き店舗を活用した交流イベント（悪質商法被害の防止のための寸劇、フリーマーケットなど）を、学生や関係機関とCSWが連携して実施した。	平成27年3月29日（日）地域住民主体の幸・王子まちづくり協議会とCSW共同主催による、市営住宅の空き店舗を活用した催しを開催した。

桃山学院大学と和泉市の連携事業結果一覧表（平成26年度）

（平成27年3月末日）

No	事業名	和泉市担当	桃山学院大学担当	連携事業の内容	事業効果・成果
18	音☆楽市inまなびのプラザ	生涯学習部 文化財振興課	社会学部	桃山学院大学に隣接するまなびのプラザで開催した音☆楽市（おと・らくいち）に、桃山学院大学のアコースティックギターサークルの学生が出演した。	学生サークルとのつながりができたことで、今後の事業展開に活かすことができる。
19	いずみの国歴史館 平成27年度春季特別展	生涯学習部 文化財振興課	学院史料室	平成27年4月、桃山学院大学の和泉キャンパス移転、和泉中央駅開業、そしてトリヴェール和泉の本格的なまちびらきから20年を記念して、桃山学院大学と共催して（泉北高速鉄道の後援）、平成27年度春季特別展「和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015」を開催する。会期：平成27年4月1日～5月17日。平成26年度は協働して特別展準備を実施した。	桃山学院大学と共同で企画を準備することで、大学が持つ和泉市に関する史料を広く公開ができる。また、大学を通じた学生への周知、広報活動を行うことで、歴史館の入館者増、認知度向上にもつながる。
20	シティプラザ 市民カレッジ	生涯学習部 文化財振興課	経済学部	桃山学院大学提供によるシティプラザ市民カレッジ「和泉の歴史文化を読み解く ―自然環境・開発・文化―」に、文化財振興課から講師を派遣した。 ・平成26年6月6日（金）「近世谷山池郷の形成」 山下聡一氏(文化財振興課嘱託) ・平成26年6月27日（金）「光明池の築造と地域社会の変化」 森下徹氏（文化財振興課）	市史編さん調査執筆委員との連携のもと、市史編さん事業の成果を市民に還元することができた。
21	博物館学芸員課程 博物館実習	生涯学習部 文化財振興課	教育支援課	桃山学院大学博物館学芸員課程の博物館実習をいずみの国歴史館で受け入れた。 ・平成26年8月26日～8月30日 参加：7人	桃山学院大学の学生教育に貢献することができた。歴史館と桃山学院大学との連携が深まった。
22	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業	学校教育部 指導室	教育支援課	平成26年5月7日に桃山学院大学でガイダンスを実施し、大学生の希望や学校側の条件など、双方の調整や確認を行った。その後、学生が和泉市内の幼稚園や小中学校において、様々な教育活動の補助にあたった。今年度は27名の学生の参加があり、学生は当該活動が学外研修として単位認定される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部員が多いクラブ活動では、顧問だけでは十分な指導ができないところをカバーできた。</li> <li>・生徒との年齢が近いので子どもとの心の距離が近く、子どもの自己有用感が高まった。</li> <li>・行事等の時にサポートがあり、大変助かった。</li> <li>・授業補助で1対1の説明が必要な児童の対応ができ、児童が落ち着いて授業に参加することができるようになった。</li> <li>・放課後学習では、担任に協力しプリントの点検やつまづいている児童への声かけを行ったので、子どもの理解・習熟につながった。</li> </ul>
23	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業	学校教育部 指導室	教職課程課	平成26年度は、中学生による「いじめ撲滅への取組みについて」をテーマとした自由討論会等を実施。 日時 平成26年8月26日（火） 13:00 ～ 16:30 場所 桃山学院大学 ヨハネホール 内容 各中学校の生徒会活動における課題に関するグループ討議（教職課程在籍の大学生との意見交流） 「いじめ撲滅への取組みについて」自由討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程の学生に、グループ討議に参加してもらい、学生の視点での意見の交流を行った。</li> <li>・各中学校の生徒会代表が、自分たちの取組みをまとめ、互いに交流する中で、さらに自分たちの取組みへの改善を行う。その際に、大学生の意見を聞くことで、さらに多くの視点での改善に役立てることができた。</li> <li>・地域の大学で実施することで、キャリア教育での視点も盛り込み、普段の中学校とは異なる雰囲気の中、緊張感を感じながら実施することができた。</li> <li>・中学生が、色々な大人や他の学校の同級生からの意見を聞きながら、自分の考えをまとめ、発表する良い機会となった。</li> <li>・中学生にとって、身近であるが、大きな課題である「いじめ」について、正面から考え、取り組むことができた。</li> </ul>
24	和泉ゼミ設立検討事業	市長公室 いずみアピール課	経営学部	経営学部今木教授のゼミ【地域ビジネス論「和泉市の地域活性化策」】にて、シティブロモーションの観点から、15回のうち10回を開催した。	ゼミ自身の設立には至らなかったが、ゼミの一部に、市関連業務等を組み込んだことで、学生は、和泉市に関する知識を持つことができた。
25	次期和泉市総合計画	市長公室 政策企画室	学長室 地域連携室	現在策定している次期総合計画に若い世代の意見を反映することを目的として、和泉市の現状を客観的に把握できるデータの収集・分析のほか、若年世代が定住を希望する「理想都市像」、若年世代が来訪するための「観光未来像」、歴史・文化を活かした「未来へのストーリー」づくりに取り組んだ。また、平成27年2月4日には学生による市長への報告会も行った。	若年世代の意見を効率的に聴取することができた。 （最終報告は平成27年4月提出）